

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:2020年12月1日

事業所名: 放課後等デイサービスえーるいーすと

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
 評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	4	0	0	・プレイルーム・サブルーム(みんなの部屋)に分室している。 ・その日の利用人数に応じて、部屋のレイアウトを少し変えている。	13	3	0	0	・もう少し広さが欲しい。	・イベントや行事・長期休暇等において、外でのスペース確保をおこなっていく。	
	2 職員の適切な配置	4	0	0	・人員を確保し、勤務体制表を掲示している。	12	1	0	2		・人員確保は出来ているので連携を強化していく。	
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備	4	0	0	・視覚支援でも、わかるように写真やカード等を提示している。 ・移動が必要な所には、手すりを設置している。	14	1	0	1		・引き続き、特性に応じた配慮を行う。	
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	4	0	0	・洗面所にて各児童のタオルを配置し毎日洗濯している。 (コロナ等対策) また、各所の消毒や換気もを行い、衛生管理を怠らないよう心がけている。	15	0	0	1		朝夕の掃除と消毒を引き続き行う。また、定期的に設備点検を怠らないようにする。	
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	4	0	0	PDCA会議を定期的に行っている。	/	/	/	/	/	/	PDCA会議を2~3ヶ月に一度のペースで行い、職員自身も個別で出来るようにしていき、自覚を向上を促す。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	/	/	/		/	/	/	/	/	/	
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	4	0	0	毎週2回程度の会議または室内研修でスキルアップを行っている。	/	/	/	/	/	/	引き続き行うとともに対外的な研修も参加していく。またその内容を職員にも周知していく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	4	0	0	アセスメント表やモニタリングや支援会議でのことや保護者の方のニーズ等をもとに支援計画を作成している。	16	0	0	0		アセスメントを行い、相談支援事業所・保護者の方とのモニタリング内や会議において、課題や保護者ニーズを把握確認し、支援計画案・書作成している。	
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	4	0	0	長期目標・短期目標・コミュニケーション・遊び、過ごし方・家族支援・地域支援に分けて具体的に支援計画を立てて、身体拘束等についても盛り込んでいる。	15	1	0	0		又、中間評価も定期的に行い支援計画に反映させている。具体的な支援内容の記載においては事業所の工夫した点(左欄)に記入していき、確認を行う。	

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標
		はい	どちらとも いえなし	いいえ	はい	どちらとも いえなし	いいえ	わからない	
提供	3	4	0	0	<p>小集団活動での感覚療育(ブレイルーム)を取り入れたり、個別活動での手指の作業等、計画に記載していくことで子どもの 具体的目標を明確にしている。</p>				<p>引き続き、小集団活動での感覚療育(ブレイルーム)を取り入れ、個別活動での手作業等、計画に記載していくことで、子どもの 具体的目標を明確にしていく。</p>

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
適切な支援の提供 (続き)	4	1	3	0	常に振り返り評価が出来るよう活動プログラム中に、現状・ねらい(短期のスパン)をもちこんでいる。	14	2	0	0	引き続き、視覚支援でのスケジュールを使い活動プログラムでのとらえ・狙いが意識出来るよう毎日振り返りを行う。 また研修等での職員の質の向上を引き続き、課題の整理を行って行く。
	5	3	1	0	ケースノートや日誌で利用児童の様子を共有したり、個別の課題の整理をチーム全体で行い、活動プログラムの立案に役立てている。	/	/	/	/	また、活動プログラムのねらいや捉えは、定期的に朝礼等職員間で確認していく。
	6	2	2	0	朝礼等でねらいにそったプログラムを考え遊びの工夫を確認している。	13	1	0	0	引き続きプレイルーム内での遊びを工夫し、子供たちが楽しく感覚遊びができるようにしていく。
	7	2	2	0	休日・長期休暇におけるスケジュールは半年計画を立て、担当者を決め計画的に準備している。(支援含め)視覚支援の必要な児童に対するの準備も徹底し確認している。	/	/	/	/	休日・長期休暇等は、一日長い時間の利用なので、イベント等以外は、遊び等何をするか？を事前に具体的に話し合う機会を持つ。
	8	3	1	0	・毎日朝礼にて確認を行っている。 また、昨日のケース記録等の話も 行っている ・その日の子供たち1人1人の目標を立てて、支援している。	/	/	/	/	引き続き、朝礼での確認を行い、職員全員に具体的に伝わるような体制作りを整えて行く。
	9	2	2	0	・日誌とは別に、ケース記録を記入し、振り返りが出来るようにしている。 ・活動記録を書きながら、気づいた点を話し合っている。	/	/	/	/	・引き続き、終わりの会等で情報を共有していく。
	10	1	2	1	日誌や個別記録に毎日記入し、必要に応じてケース記録やヒヤリハット記録をし、事業所全体で確認している。また必要に応じて、対策等も話あって記録している。	/	/	/	/	・個別記録を今まで以上に適切に細かく記入していくようにしていく。また定期的に確認していく。
11	4	0	0	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	/	/	/	/	引き続き徹底していく。	
関係機関	1	4	0	0	児童発達管理責任者や児童の担当者が、サービス担当者会議や学校での支援会議や状況に応じたの懇談会に参画することで共通認識を行っている。	/	/	/	/	引き続き行っていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標		
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
関係機関との連携 (続き)	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備											
	4 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	3	0	1	特別支援学校等と会議を行い、利用児童の支援内容の情報共有や共通理解を図っている。また日々、送迎時には、利用児童の様子を伺っている。						支援内容の共通理解や共有をはかるため、必要に応じて会議を増やせるよう検討していく。	
	5 他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	4	0	0	相談支援事業所を通して支援内容を伝えたり、モニタリング等で情報を共有し支援によっては提供している。						引き続き、相談支援事業所との引継ぎをしていく。	
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	0	3	1	支援会議等にて、連携をとっている。職員資格取得の受講を促している。市の連絡協議会の参加をしている。						引き続き、これまで以上に専門機関との連携や研修の受講等を促進していく。また、センター主催の研修等にも参加していく	
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	0	3	1	・今年は、コロナの影響で、児童館等へは行ってない。又地域の子供達と活動する機会もとれていない。 ・コロナ対策により交流の機会を控えていた。	5	2	2	5	・もう少し障害のない子供との接点があると有難い。 ・コロナ対策で、今は交流を控えているようなので、どちらでもないに〇つけました。	コロナ感染が落ち着き次第、休日や長期休暇において、地域との交流の機会を作っていく。	
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	0	3	1	・今年は、コロナ対策で招待の機会はなかったが、事業所内のイベント時にはボランティアの方にお手伝いをしてもらっている。						地域イベントの参加やボランティアとの交流を増やしていきたい。	
	保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	4	0	0	契約時に、保護者の方と面談しアセスメントを行い、相談支援事業者間でのサービス計画案等にも基づいた支援内容を具体的に決めている。また重要事項説明時に、利用者負担等についてもしっかりと事例を出し説明している。	14	0	0	0		引き続き書面や口頭での説明をしっかりと行っていく。
		2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	4	0	0	支援計画案で確認し、支援計画書を作成して確認してもらう。保護者と対面し、内容を説明している。	15	0	0	0		引き続き、計画案・書を説明して確認を怠らないようにしていく。
3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施		3	1	0	保護者へ向けた発信としてペアレントサポートトレーニングや勉強会を行っている。	13	1	0	1		引き続き、保護者お茶会でのトレーニングや勉強会等を行っていく。	

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえなし	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえなし	いいえ		わからない
4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	4	0	0	連絡ノートに、状況や遊び等の様子を伝え、必要に応じて電話や口頭にて伝えている。(年に1回懇談会を開く予定。)	16	0	0	0	保護者の方に合わせた連絡法を考えて行く。また、支援会議の時間帯により、参加出来ない事があるので保護者の方においては毎月の希望表に懇談希望欄を設け相談しやすい環境を作っていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標			
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ		わからない	保護者の方のご意見	
保護者への説明責任・連携支援（続き）	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	3	1	0	モニタリングや会議を通しての相談や連絡ノートでの対応やお迎え時・電話などでの助言を行っている。	13	1	0	1	連絡ノートを活用したり、個別相談の機会を設けていく。また、引き続き定期的に個別懇談を行う。	
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	4	0	0	2ヶ月に一度、保護者お茶会を設け講演会やえーるでのおやつやクラブ・趣味的な催しを企画し、保護者間の交流を促している。	13	1	0	0	引き続き、行っていく。	
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	4	0	0	・苦情ボックスを玄関に設けている。	12	1	0	1	苦情ボックスの周知を行う。苦情だけでなく、相談もしやすいように相談機会を多く作って行く。	
	8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	4	0	0	毎日連絡ノートにて、様子を伝えている。又、電話でのやりとりもしている。えーるだよりの機関誌を毎月発行している。	12	0	0	0	引き続き、子どもには状況に合わせて、視覚支援を増やす等の支援を行っていく。 (環境整備)保護者においては連絡ノート懇談会等で対応していく。	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	4	0	0	えーるだよりの機関紙において活動内容や予定や必要な情報を掲載し、また予定表も別紙に毎月配布して利用児童や保護者に発信している。	13	0	0	0	引き続き、行っていく。	
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	4	0	0	職員においては入社時、個人情報取り扱いに関する誓約書、保護者の方には個人情報に関する同意書及び契約書にて説明し、同意印を頂いている。その他、職員については定期的に研修を行っている。	13	0	0	0	引き続き、しっかりとした取り扱いを行っていく。	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	3	1	0	職員には・マニュアルを使い定期的に研修を行っている。保護者へはえーるだよりにて玄関横や入口に掲示していることを伝え、周知して頂いている。	13	1	0	0	・避難訓練は月1回行ってくれているのは知っているが、マニュアル等の説明は聞いてない。	目につくところに設置していく。定期的に機関紙等に告知していく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	4	0	0	1か月に1回いろんな災害を想定しての避難訓練を行っている。また、職員研修にて話し合いをもっている。	13	0	0	0	引き続き、行っていく。	
非	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	4	0	0	週2回程度の研修において、定期的に行っている。						事業所外での研修も増やして行きたい。(コロナ収束時)

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標			
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ		わからない	保護者の方のご意見	
非常時等の 対応（ 続き）	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	4	0	0	放課後等デイサービス支援計画書において記載し、カンファレンスを行い活動プログラムまたは記録に記載している。						引き続き、徹底していく。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	2	2	0	・アセスメント時に確認事項に記載している。 ・今の所は、利用児童に食物アレルギーのある子供さんがいない。						引き続き、確認していく。 場合により医師の診断書で詳しく確認対応していく。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	4	0	0	事例集を作成事業所内で共有している。また、事業所(3カ所)間で、合わせて対策を話し合っている。						引き続き、事例集を作成し対策を徹底していく。